



研修講座 B-12 「授業改善に向けた校内研修」 を実施しました！

「授業研究の推進に向けて」

【講師】 三重県教育委員会事務局 研修企画・支援課 企画・支援班

研修主事 岡 賢一さん

研修主事 山田 雄亮さん

6月27日（火）、三重県教育委員会事務局研修企画・支援課 企画・支援班の研修主事である岡賢一さんと山田雄亮さんをお迎えし、「授業研究の推進に向けて」と題してご講義いただきました。

はじめに山田さんよりオリエンテーションとして過去の経験を通して形成された価値観や知識を客観視し、思考のクセを取り除くアンラーン（学びほぐし）を行うことで新しい価値観や知識をインプットすることができ、「ものの見方」や「行動様式」をアップデートすることができるという話がありました。この話から普段何気なく行っている業務に対して別の視点からアプローチすることで業務の効率化につなげ、校内研修を充実させるヒントになると感じました。



次に岡さんより、「教員同士が学びあう授業研究とは」についてご講義いただきました。教員同士が学び合う授業研究とは「対話を通して、多くの学びが生まれる場」「学びを自覚し、実践につなげる場」であるという話がありました。そのような場にしていくために授業検討会では、学習する子どもの視点に立って、子どもの姿から語る授業検討会にしていく必要があることを改めて確認しました。子どもの姿をもとに話し合うことで課題から問いを立て、改善策を考え、全体共有していくこと、そのサイクルを継続していくことが大切であることを学びました。

また、自分の学びを振り返り、学びの具体化、共有化、持続化をしていくことが学びを自覚し、実践につなげることができることを学びました。

これらの講義を受けて、グループで交流を行いました。自校の授業研究にどう生かしていくかについて考える機会となりました。今回の講義やグループ演習から学んだことを取り入れながら、各校・園での授業研究や研修を進めていただければと思います。



アンケートより 【一部抜粋】

- ・子どもの姿をもとにすることで問いを立て、そこから話し合いが深まっていくというイメージがわかりました。アドバイスをするだけでなく、お互いに学びのある建設的な話し合いをしていきたいです。（小）
- ・グループの先生と自校のとりくみを含めて話し合えたのがよかったです。悩みや自分の実践の評価を共有でき、有意義な時間となりました。授業研究を通じて「研究授業やってよかった！」と先生自身が思えるようにしていきたいと同時に教研主任としての役割を改めて自覚することができました。（中）